

ポスターA-2**ポスター発表(実践)****外国から来た児童への日本語指導の具体的な手立て**

—おもしろくて楽しい方法 51—

村山勇 (灘わくわく会)

実践の場の特徴

A小学校の「国際教室」では、外国から初来日してきた児童が在籍学級から離れてここで日本語の学習を週に10時間ほど集中して行う。毎年留学生の子どもが多数転入して来るので、初級の指導が多い。学習意欲は高いが、環境の変化で緊張している児童も多い。

実践の目標

この国際教室では、児童がゼロ初級から始めて、生活言語の獲得、低学年の教科書が読めるぐらいまでを目指している。児童が興味をもって日本語学習に取り組めるように、楽しい方法をたくさん考案し、国際教室の定例とする。また全国の日本語指導担当者と交流し、シェアをする。

具体的な実践の内容とその過程

近年児童向けの日本語学習のテキストは増えてきた。しかし指導者によっては、読み書きを重視し内容を暗記する学習スタイルが多い。児童の中には日本式の「読んで書く」という学習スタイルではなく、母国の「聞いて話す」という学習スタイルに慣れている者もいる。その為、学習に集中できないという現象も見られる。そこで発表者は、児童の緊張をほぐし動作やゲームを通じて楽しく自然に日本語を覚えるという技法を51個開発し整理してみた。ほとんどは発表者のオリジナルであるが、「日本語学級1 大蔵守久 凡人社」を参考にしたものもある。なおこの内容は、発表者がA小学校の国際教室で日本語指導を担当した1995年から2000年までのものが主である。

結果と考察 (目標の達成度・課題)

技法のいくつかは、児童がまねをすることにより覚え、次に来た児童にしてみせるようになり国際教室の伝統として受け継がれていった。児童の緊張がほぐれて、生活言語の獲得や教科書への導入が、早期にできるようになった。全国の日本語指導担当者との交流は十分には行えていない。今後の課題である。

【引用文献】

- 日本語学級 1,2 大蔵守久
- ひろさんのたのしいにほんご 1,2
- 日本語授業おもしろネタ集 1,2